

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書（令和7年度）

【自己評価1－1】専任教員の配置状況

島根リハビリテーション学院

学部・学科等の 名称	専任教員数								非常勤 教員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準 数	うち理学 療法士又 は作業療 法士数	助手			
理学療法学科						6人	5人	0人	68人	23人	
作業療法学科						6人	3人	0人	82人	22人	
計						12人	8人	0人	150人	－	

【自己評価1－2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正でない。	1

【自己評価1－3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する職員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1－4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2－1】養成施設指導ガイドラインとの運動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	心理学	8	小林亮輔	兼任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	倫理学	8	田中一馬	兼任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	文化人類学	8	苅田哲也	専任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	コミュニケーション論	8	錦織健次	専任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	マネジメント概論	8	尾野寛明	兼任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	キャリアマネジメント論Ⅰ	8	鈴木 哲	専任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	教育学	8	塩津英樹	兼任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	情報処理	8	浅野保広	兼任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	物理学	8	尾崎 徹	兼任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	英語-reader-	15	White Matthew Bennett	兼任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	英語-speech-	15	White Matthew Bennett	兼任

基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	保健体育-講義-	7.5	土屋 淳	兼任
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	保健体育-実技-	22.5	土屋 淳	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学講義Ⅰ（筋骨格系）	15	横田茂文	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学講義Ⅱ（神経系）	15	横田茂文	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学講義Ⅲ（内臓系）	8	横田茂文	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学-実習-	15	堀江貴文	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
				青木竜太郎	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学講義Ⅰ（動物生理）	2	橋本道男	兼任
			13	鈴木 哲	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学講義Ⅱ（植物生理）	15	橋本道男	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学-実習-	22.5	橋本道男	兼任
				山崎健治	兼任
				後藤智基	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学-講義-	15	山崎健治	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学-実習-	22.5	山崎健治	専任
			6	角田有良	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	8	伊藤晃崇	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	8	並河 徹	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	8	執行三佳	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学	2	佐野千晶	兼任
			2	長尾大志	兼任
			2	神田武志	兼任
			4	渡邊伸英	兼任
			1	川原 洋	兼任
			2	石原慎一郎	兼任
			2	小川典子	兼任
			2	岡 明彦	兼任
			1	片岡祐俊	兼任
			1	尾上正樹	兼任
			2	村川洋子	兼任

			1	堀江貴文	専任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学	1	内尾祐司	兼任
			2	山本宗一郎	兼任
			2	今出真司	兼任
			2	山上信生	兼任
			4	多久和紘志	兼任
			3	門脇 俊	兼任
			2	真子卓也	兼任
			3	西 英明	兼任
			2	岩佐潤二	兼任
			1	栗岡秀行	兼任
			1	柿丸知之	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	神経内科学	15	渡邊達三	兼任
			4	飯島献一	兼任
			4	小黒浩明	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	15	和氣 玲	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	小児科学	15	竹谷 健	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	1	馬庭壯吉	兼任
			2	酒井康生	兼任
			3	蓼沼 拓	兼任
			1	高橋幸男	兼任
			1	山本佳昭	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション栄養学	8	名和田清子	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学	8	直良浩司	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医療安全・救急救命技術論	5	谷口かおり	兼任
			3	奥出雲町消防士	兼任
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	老年学	8	遠藤健史	兼任
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	青木竜太郎	専任
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	社会福祉論	8	浜村 修	兼任
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	公衆衛生学	8	谷口かおり	兼任
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーション	チーム医療論	6	山本恵子	兼任
			2	松本賢治	兼任
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療コミュニケーション演習	15	錦織健次	専任
			8	青木竜太郎	専任

専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	チーム医療論演習	5	山本恵子	兼任
			2	錦織健次	専任
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	4	鈴木 哲	専任
			1	山崎健治	専任
			2	後藤智基	専任
			1	神田一路	専任
専門分野	基礎理学療法学	国際リハビリテーション論	8	幸福秀和	兼任
専門分野	基礎理学療法学	研究方法論Ⅰ（総論 統計）	8	山崎健治	専任
専門分野	基礎理学療法学	研究方法論Ⅱ（研究計画）	30	山崎健治	専任
専門分野	基礎理学療法学	研究方法論Ⅲ（実施と発表）	30	山崎健治	専任
専門分野	理学療法管理学	理学療法マネジメント論Ⅰ	8	鈴木 哲	専任
専門分野	理学療法管理学	理学療法マネジメント論Ⅱ	8	鈴木 哲	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法検査測定法Ⅰ	15	神田一路	専任
				後藤智基	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法検査測定法Ⅱ	15	後藤智基	専任
				苅田哲也	専任
専門分野	理学療法評価学	動作分析学	15	山崎健治	専任
				苅田哲也	専任
専門分野	理学療法評価学	臨床理学療法評価学Ⅰ	15	鈴木 哲	専任
				堀江貴文	専任
				山崎健治	専任
				後藤智基	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
専門分野	理学療法評価学	臨床理学療法評価学Ⅱ	15	鈴木 哲	専任
				堀江貴文	専任
				山崎健治	専任
				後藤智基	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
専門分野	理学療法治療学	運動療法基礎論	16	苅田哲也	専任
			14	神田一路	専任
専門分野	理学療法治療学	物理療法Ⅰ	15	神田一路	専任

専門分野	理学療法治療学	物理療法Ⅱ	15	神田一路	専任
専門分野	理学療法治療学	義肢学	15	大塚 彰	兼任
専門分野	理学療法治療学	装具学	15	石倉英樹	兼任
専門分野	理学療法治療学	日常生活活動Ⅰ	12	後藤智基	専任
			3	大塚 彰	兼任
専門分野	理学療法治療学	整形外科系治療学	31	山崎健治	専任
			10	堀江貴文	専任
			4	長谷川哲也	兼任
専門分野	理学療法治療学	神経内科系治療学	20	苅田哲也	専任
			25	神田一路	専任
			2	佐々木翔太	兼任
専門分野	理学療法治療学	小児科系治療学	15	浅野大喜	兼任
専門分野	理学療法治療学	内科系治療学Ⅰ	10	井上 魁	兼任
			9	鈴木 哲	専任
			8	苅田哲也	専任
			2	野口暎一	兼任
専門分野	理学療法治療学	スポーツ理学療法論	10	堀江貴文	専任
専門分野	地域理学療法学	理学療法トピックス	2	猪村剛史	兼任
			2	増田 拓	兼任
			2	曾田将紀	兼任
				森脇俊貴	兼任
			3	鈴木 哲	専任
			3	苅田哲也	専任
専門分野	地域理学療法学	生活環境論	3	山崎健治	専任
			12	後藤智基	専任
			4	大塚 彰	兼任
専門分野	地域理学療法学	地域理学療法論（旧カリ）	15	山崎健治	専任
		地域理学療法論（新カリ）	5	鈴木 哲	専任
			4	山崎健治	専任
			1	加藤忠相	兼任
			1	佐々木 淳	兼任
			1	山下勝巳	兼任
			1	羽田知世	兼任
			2	山岸暁美	兼任

専門分野	地域理学療法学	地域理学療法演習	15	鈴木 哲	専任
				山崎健治	専任
				後藤智基	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅰ	22.5	臨床実習施設指導者	兼任
				鈴木 哲	専任
				堀江貴文	専任
				山崎健治	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅱ	67.5	臨床実習施設指導者	兼任
				鈴木 哲	専任
				堀江貴文	専任
				山崎健治	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅲ	90	臨床実習施設指導者	兼任
				鈴木 哲	専任
				堀江貴文	専任
				山崎健治	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅳ	360	臨床実習施設指導者	兼任
				鈴木 哲	専任
				堀江貴文	専任
				山崎健治	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
特別理学療法学		総合演習Ⅰ	30	鈴木 哲	専任
				堀江貴文	専任
				山崎健治	専任
				神田一路	専任
				苅田哲也	専任
				鈴木 哲	専任
				堀江貴文	専任

特別理学療法学		総合演習Ⅱ	30	山崎健治	専任
				神田一路	専任
				荻田哲也	専任
特別理学療法学		総合演習Ⅲ	30	山崎健治	専任
特別理学療法学		総合演習Ⅳ	30	堀江貴文	専任
特別理学療法学		障がい者スポーツ	15	堀江貴文	専任
特別理学療法学		医学英語	30	岩田 淳	兼任
特別理学療法学		スポーツトレーナー演習	8	松本康佑	兼任
				蔦川和希	兼任
				小村康平	兼任
特別理学療法学		スポーツメンタルトレーニング	8	堀江貴文	専任
特別理学療法学		地域理学療法実習	15	鈴木 哲	専任
				荻田哲也	専任
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	15	吉田俊輔	専任
専門分野	基礎作業療法学	国際リハビリテーション論	8	幸福秀和	兼任
専門分野	基礎作業療法学	研究方法論Ⅰ	8	花岡秀明	兼任
専門分野	基礎作業療法学	研究方法論Ⅱ	9	花岡秀明	兼任
			21	吉田俊輔	専任
専門分野	基礎作業療法学	研究方法論Ⅲ	30	吉田俊輔	専任
専門分野	作業療法管理学	作業療法マネジメント論Ⅰ	3	森脇繁登	兼任
			2	小林 央	兼任
			3	白鹿真之介	兼任
専門分野	作業療法管理学	作業療法マネジメント論Ⅱ	2	森脇繁登	兼任
			1	小林 央	兼任
			1	篠崎亜由美	兼任
			2	小山雅之	兼任
			1	下石勝哉	兼任
			1	青木竜太郎	専任
専門分野	作業療法評価学	評価法Ⅰ（身障）- 1	15	錦織健次	専任
			10	吉田俊輔	専任
専門分野	作業療法評価学	評価法Ⅰ（身障）- 2	15	錦織健次	専任
専門分野	作業療法評価学	評価法Ⅱ（精神）	8	小林成人	兼任
			7	増崎堅斗	兼任

専門分野	作業療法評価学	評価法Ⅲ（発達）	13	錦織健次	専任
			2	岩田淳也	兼任
専門分野	作業療法評価学	評価法Ⅳ（高次脳）	15	青木竜太郎	専任
専門分野	作業療法評価学	臨床作業療法評価学（演習）	15	吉田俊輔	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅰ-1（中枢系）	28	青木竜太郎	専任
			2	森脇繁登	兼任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅰ-2（整形系）	10	佐藤千晃	兼任
			20	吉田俊輔	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅰ-3（内科系）	10	佐藤千晃	兼任
			20	錦織健次	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅱ（精神）-1	11	増崎堅斗	兼任
			4	津田宏太郎	兼任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅱ（精神）-2	9	杉原純子	兼任
			2	持田 玲	兼任
			2	大橋正吾	兼任
			2	稲垣佑輔	兼任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅱ（精神）-3	8	増崎堅斗	兼任
			3	篠崎亜由美	兼任
			4	秋山健太	兼任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅲ（発達）	20	錦織健次	専任
			4	福島由美	兼任
			4	岩田淳也	兼任
			2	来間寿史	兼任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅳ（高次脳）	15	青木竜太郎	専任
専門分野	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅴ（老年期）	15	花岡秀明	兼任
専門分野	作業療法治療学	義肢学	15	大塚 彰	兼任
専門分野	作業療法治療学	装具学	15	石倉英樹	兼任
専門分野	作業療法治療学	日常生活活動	15	錦織健次	専任
専門分野	作業療法治療学	生活マネジメント論	3	吉田俊輔	専任
			2	野中千晶	兼任
			3	村瀬良知	兼任
専門分野	作業療法治療学	基礎作業学Ⅰ（理論）	8	吉田俊輔	専任
専門分野	作業療法治療学	基礎作業学Ⅱ（技術）	15	吉田俊輔	専任

専門分野	作業療法治療学	応用作業分析学	15	青木竜太郎	専任
				吉田俊輔	専任
			4	松本周三	兼任
				曾田陽介	兼任
				津田宏太郎	兼任
専門分野	地域作業療法学	地域マネジメント論	15	吉田俊輔	専任
専門分野	地域作業療法学	職業関連活動	13	錦織健次	専任
			2	大谷将之	兼任
専門分野	地域作業療法学	地域作業療法論	12	錦織健次	専任
			3	吉田俊輔	専任
専門分野	地域作業療法学	地域インクルーシブ論	8	青木竜太郎	専任
				尾野寛明	兼任
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅰ	22.5	臨床実習施設指導者	兼任
				青木竜太郎	専任
				錦織健次	専任
				吉田俊輔	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅱ	67.5	臨床実習施設指導者	兼任
				青木竜太郎	専任
				錦織健次	専任
				吉田俊輔	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅲ	90	臨床実習施設指導者	兼任
				青木竜太郎	専任
				錦織健次	専任
				吉田俊輔	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅳ	360	臨床実習施設指導者	兼任
				青木竜太郎	専任
				錦織健次	専任
				吉田俊輔	専任
特別作業療法学		総合演習Ⅰ	30	青木竜太郎	専任
				錦織健次	専任
				吉田俊輔	専任
特別作業療法学		総合演習Ⅱ	30	青木竜太郎	専任
				錦織健次	専任
				吉田俊輔	専任

特別作業療法学		総合演習Ⅲ	15	青木竜太郎	専任
				錦織健次	専任
				吉田俊輔	専任
特別作業療法学		総合演習Ⅳ	30	青木竜太郎	専任
				錦織健次	専任
				吉田俊輔	専任
特別作業療法学		チャイルドサポート	15	引野里絵	兼任
特別作業療法学		医学英語	30	岩田 淳	専任
特別作業療法学		メンタルサポート&ソーシャルネットワーク	15	尾野寛明	兼任
				青木竜太郎	専任
特別作業療法学		コミュニティデザイン	15	尾野寛明	兼任
				青木竜太郎	専任

【自己評価２－２】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価２－３】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を <u>おおむね</u> 明記している。または、 <u>大半の</u> 授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価３－１】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をしている。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむねしている。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を <u>十分に実施していない</u> 。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を <u>実施していない</u> 。	1

【自己評価３－２】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して <u>実施されていない</u> 。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

理学療法学科

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ（見学実習）	2年生後期	コミュニケーション論	1年後期
		キャリアマネジメント論Ⅰ	1年前期
		キャリアマネジメント論Ⅱ	2年前期
		解剖学講義Ⅰ（筋骨格系）	1年前期
		解剖学講義Ⅱ（神経系）	1年前期
		解剖学講義Ⅲ（内臓系）	1年後期
		解剖学実習	2年前期
		生理学講義Ⅰ（動物生理）	1年前期
		生理学講義Ⅱ（植物生理）	1年後期
		生理学実習	2年前期
		運動学講義	1年前期
		運動学実習	1年後期
		人間発達学	1年後期
		病理学概論	1年後期
		内科学	2年前期
		整形外科	2年前期
		神経内科学	2年前期
		精神医学	2年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		社会福祉論	1年後期
		公衆衛生学	1年後期
		理学療法概論Ⅰ	1年前期
		国際リハビリテーション論	1年後期
		理学療法検査測定法Ⅰ	1年後期
		理学療法検査測定法Ⅱ	2年前期
		運動療法基礎論	1年後期
		物理療法Ⅰ	2年前期
		日常生活活動Ⅰ	1年後期
		スポーツ理学療法論	2年前期
		生活環境論	2年前期
		地域理学療法論	1年後期
		地域理学療法演習	2年前期
		地域理学療法実習	2年前期
臨床実習Ⅱ（評価実習）	3年生後期	上記に以下の科目を加える	
		臨床心理学	2年後期
		内科学	2年後期
		整形外科	2年後期
		神経内科学	2年後期
		小児科学	2年後期
		リハビリテーション医学	3年前期
		リハビリテーション栄養学	2年後期
		薬理学	2年後期
		医療安全・救急救命技術論	2年後期
		老年学	2年後期
		チーム医療演習	3年前期
		理学療法マネジメント論Ⅰ	3年前期
		画像評価学	3年前期
		動作分析学	2年後期
		臨床理学療法評価学Ⅰ	3年前期

		臨床理学療法評価学Ⅱ	3年前期
		物理療法Ⅱ	2年後期
		義肢学	2年後期
		装具学	3年前期
		日常生活活動Ⅱ	3年前期
		整形外科系治療学	3年前期
		神経内科系治療学	3年前期
		小児科系治療学	3年前期
		内科系治療学Ⅰ	2年後期
		スポーツ理学療法演習	3年前期
		障がい者スポーツ	2年後期
臨床実習Ⅲ(評価実習)	3年生後期	上記科目と同様	
臨床実習Ⅳ(総合実習・地域臨床実習)	4年生前期	上記に以下の科目を加える	
		理学療法マネジメント論Ⅱ	3年後期
		整形外科系治療学	3年後期
		神経内科系治療学	3年後期
		内科系治療学Ⅱ	3年後期
		ヘルスプロモーション	3年後期

作業療法学科

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ(見学実習)	2年生後期	コミュニケーション論	1年後期
		キャリアマネジメント論Ⅰ	1年前期
		キャリアマネジメント論Ⅱ	2年前期
		解剖学講義Ⅰ(筋骨格系)	1年前期
		解剖学講義Ⅱ(神経系)	1年前期
		解剖学講義Ⅲ(内臓系)	1年後期
		解剖学実習	2年前期
		生理学講義Ⅰ(動物生理)	1年前期
		生理学講義Ⅱ(植物生理)	1年後期
		生理学実習	2年前期
		運動学講義	1年前期
		運動学実習	1年後期
		人間発達学	1年後期
		病理学概論	1年後期
		内科学	2年前期
		整形外科学	2年前期
		神経内科学	2年前期
		精神医学	2年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		社会福祉論	1年後期
		公衆衛生学	1年後期
		評価法Ⅰ(身障) - 1	1年後期
		日常生活活動	1年後期
		生活マネジメント論	1年後期
		基礎作業学Ⅰ(理論)	1年前期
		基礎作業学Ⅱ(技術)	1年後期
		評価法Ⅰ(身障) - 2	2年前期
		評価法Ⅱ(精神)	2年前期

臨床実習Ⅱ(評価実習)	3年生後期	上記に以下の科目を加える	
		臨床心理学	2年後期
		内科学	2年後期
		整形外科	2年後期
		神経内科学	2年後期
		小児科学	2年後期
		リハビリテーション医学	3年前期
		リハビリテーション栄養学	2年後期
		薬理学	2年後期
		医療安全・救急救命技術論	2年後期
		老年学	2年後期
		チーム医療演習	3年前期
		評価法Ⅲ(発達)	2年後期
		評価法Ⅳ(高次脳)	2年後期
		作業療法治療学Ⅰ-1(中枢系)	2年後期
		作業療法治療学Ⅱ(精神)-1	2年後期
		地域マネジメント論	2年前期
		地域作業療法論	2年後期
		作業療法マネジメント論Ⅰ	3年前期
		臨床作業療法評価学(演習)	3年前期
		作業療法治療学Ⅰ-2(整形系)	3年前期
		作業療法治療学Ⅰ-3(内科系)	3年前期
		作業療法治療学Ⅱ(精神)-2	3年前期
		作業療法治療学Ⅲ(発達)	3年前期
		作業療法治療学Ⅴ(高齢者)	3年前期
		応用作業分析学	3年通年
		職業関連活動	3年後期
		地域インクルーシブ論	3年前期
臨床実習Ⅲ(評価実習)	3年生後期	上記に以下の科目を加える	
		作業療法治療学Ⅱ(精神)-3	3年後期
		作業療法治療学Ⅳ(高次脳)	3年前期
臨床実習Ⅳ(総合実習・地域臨床実習)	4年生前期	上記と同じ	上記と同じ

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価４－１】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	島根リハビリテーション学院自己点検評価委員会
委員名（委員長）	紫藤 治（委員長）、鈴木 哲、堀江貴文、青木竜太郎、中澤信善、井上芳文、平井優樹
組織の開催頻度	年2回程度
組織の取り組み内容	・自己点検・自己評価の基本方針、実施体制、評価基準項目の検討等
	・自己点検・自己評価報告書の作成
	・自己点検・自己評価結果に基づく改善策の提案
	・自己点検・自己評価結果の公表
自己点検・評価結果の公表	H P で公表(URL：https://shima-reha.com/info/info_disclosure/)

【自己評価４－２】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	島根リハビリテーション学院理学療法学科科学科会議 島根リハビリテーション学院作業療法学科科学科会議
	委員構成等	鈴木 哲(教務部長)、堀江貴文(理学療法学科科学科長)、青木竜太郎(作業療法学科科学科長)
	改善の仕組みの実際	・シラバス検討の頻度・時期：毎年度1回(1月～2月)
		・シラバス検討に用いる資料：カリキュラムマップ、授業評価結果、再試験率、授業担当者からのヒアリング
		・確認項目：科目概要、到達目標、授業内容、評価基準、教科書・参考書、講師の実務経験に関する記述、アクティブラーニングの導入状況
		・概要：教務部長、各学科長がシラバスを確認し、授業担当者に修正を行わせる。その後、すべてのシラバスは学科会議で再度検討され、承認される。

【自己評価４－３】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

・資格取得率向上のための取り組み
両学科の資格取得率の目標は、100%としている。これを達成するため、1年次から4年次までの体系的な資格取得のためのカリキュラムを構築した。また、e-Learningの仕組みを整え、効率化を実現している。これらの取り組みを自己点検・評価及び第三者評価の結果を踏まえ、経時的に改善している。
・キャリア教育の充実
本学は、就職率100%、就職満足度90%以上、学生の自律的なキャリア形成能力の育成をキャリア教育の方針としている。この方針に従い、自己点検・評価及び第三者評価の結果を踏まえ、経年的にキャリア教育カリキュラムの見直し、インターンシップの整備、就職説明会の開催、卒業生との情報交換会など、取り組みを充実させてきた。加えて、専任教員による就職支援能力(履歴書、小論、面接指導)の向上を図るため、学科ごとにFD研修会を実施している。
・育成人材像実現のためのアクティブラーニング導入
両学科の育成人材像やディプロマ・ポリシーに課題発見・解決能力、自己学習能力を設定している。これを達成するため、1年次から4年次までのカリキュラムにアクティブラーニングの手法を取り入れた科目を体系的に設置することを目標にしている。そのため、自己点検・評価及び第三者評価の結果を踏まえ、H28年度、R元年度、R5年度と、経時的にカリキュラムを改善してきた。また、教員のFD活動としてアクティブラーニングの教育手法の研修会を開催している。
・臨床実習の質向上のための取り組み
令和元年度の指定規則の改定に伴い、臨床実習の形態が従来型から診療参加型に変更された。また臨床実習指導者の要件が厳格化された。本学は、この指定規則の改定に対応し、かつ更なる質の向上を図ることを方針としている。自己点検・評価及び第三者評価の結果から、臨床実習指導者の養成とその教育能力の向上が課題として挙げられた。そのため、島根県理学療法士会、島根県作業療法士会と連携した臨床実習指導者の養成の仕組みを構築している。
・魅力化の推進
本学は島根県の山間地域にあり、高齢化率は40%を超え、交通の便も悪く、学生募集の面からは不利な立地といえる。しかし、この立地を生かした魅力あるカリキュラムの創出を方針とし、自己点検・評価及び第三者評価の結果を踏まえながら、カリキュラムの魅力化を図ってきた。現在、「日本の未来でリハビリを学ぶ」をキャッチコピーとし、多くの地域連携型の科目が創出され、他の学校にない特徴あるカリキュラムとなっている。今後とも社会的ニーズを取り入れながら、地域と連携した教育の魅力化を進めていく方針である。